

もん じょ かん 文書館ニュース

No.37

山口県文書館



ホームページトップ画面



制作風景



- 〈表紙〉 ホームページトップ画面と制作風景 ……1
- 写真メモ・2002年度 ……5
- ホームページリニューアルのご案内 ……2・3
- 職員の声 ……6・7
- 特集：市町村合併と公文書保存< II > ……4
- 山口県文書館からのお知らせ ……8

ホームページリニューアルのご案内

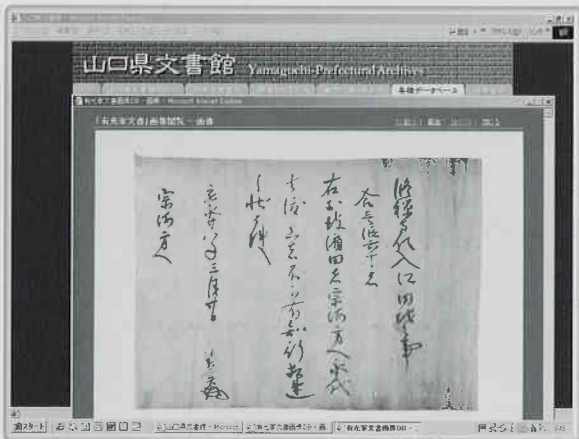
<http://ymonjo.ysn21.jp/>

平成15年度から、より多くの方により詳しい文書館の情報をお知らせするため、ホームページをリニューアルしました。

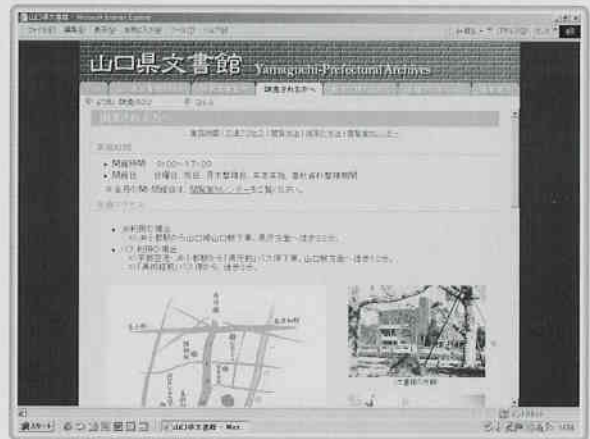
文書館に興味を持っている方々に、これから文書館を利用する支援となれば幸いです。以下、主なページについて簡単に説明します。

各種データベース

国指定重要文化財である有光家文書の画像閲覧、毛利家文庫の正保国絵図周防・長門両国の高精細画像閲覧、および「山口県文化史年表」データベースによる県内の歴史項目検索ができます。正保国絵図では、絵図中の細かい文字や集落の様子などの情報を拡大して見る事が可能です。文化史年表では、地名や出来事などをキーワードにして検索すると、関連項目が一覧表示されます。



調査される方へ

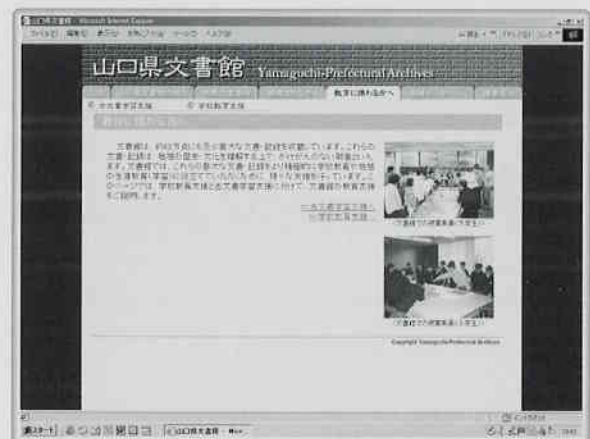


初めて文書館で閲覧利用する方へのご案内を載せています。「よりよい調査のコツ」では、文書館での調査を効率的に行うために、来館前の事前調べと問い合わせについてのコツを紹介しています。また「Q&A」では、初めて来館する方に予め知っておいていただきたい事柄について、一問一答形式でお知らせしています。

教育に携わる方へ

一般対象の「古文書学習支援」と、教員対象の「学校教育支援」の2つのコンテンツがあります。前者は、これから古文書を学習してみようと考えている方や地域の歴史についてより研究を深めたいという方へのご案内をしています。

後者は、小・中・高教員を対象とした古文書活用講座をもとに、当館が支援できることをご案内しています。

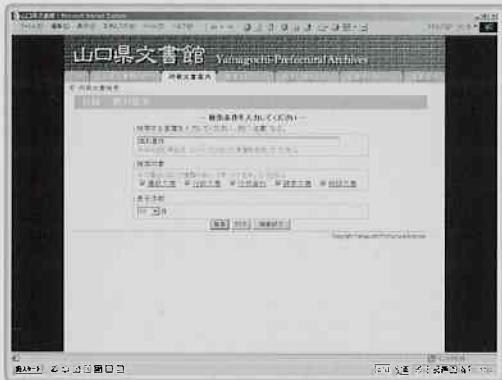


所蔵文書検索

以前からご要望が多かったインターネットによる「所蔵文書検索」を一部可能としました。この検索システムでは、毛利家文庫など目録としてすでに活字化されているもの約83,000件について、下記の3通りの方法で検索できます。

検索の仕方によっては表示数が非常に多くなる場合がありますが、検索条件を上手に使い分けて効率よく文書を探してください。

簡易検索



文書名(標題)や内容に含まれる言葉(キーワード)で検索します。文書情報が不確かな場合や、ある事柄に関連する文書の一覧を知りたい時などに使います。スペースで区切れば複数の文字列による”AND検索”も可能です。たとえば「周防長門 石高」と打ち込んで検索すると、文書名や内容説明文中に3つの文字列が全て含まれている文書の一覧が表示されます。

階層検索

検索対象の文書群は、樹形図のような階層構造で分類・整理されています。左枠の分類の中から一つを選択すると説明が表示されます。

下の階層へ ボタンをクリックすると、下位の分類一覧が表示され、さらに選択して絞り込んでいきます。



詳細検索

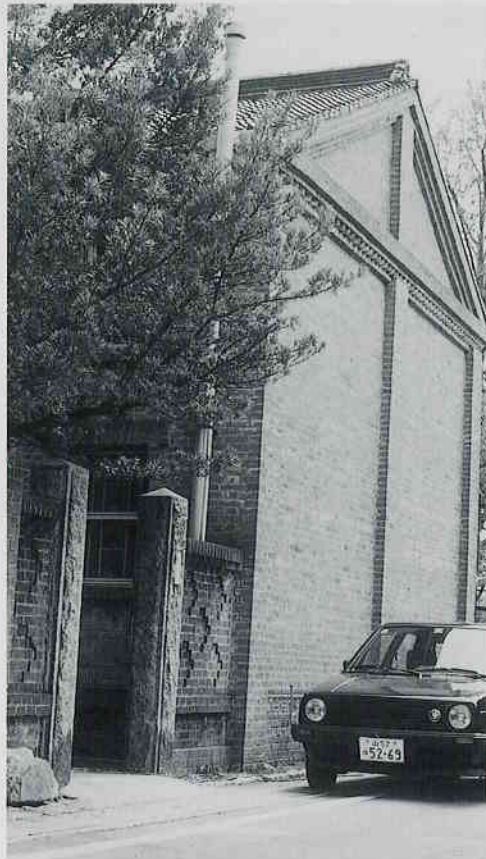
より多くの条件を指定して対象を絞って検索します。分類・年月日・整理番号といった条件のほか、文字列の指定では“AND検索”と“OR検索”(○○または△△)が設定できます。たとえば、「毛利家文庫の政理の中から、標題に儉約または沙汰という語句を含み、天保3年～慶応2年の間に作成された文書」というような細かい条件設定で検索することができます。



特 集

市町村合併と公文書保存Ⅱ

—ピンチをチャンスに!—

煉瓦造の長府図書館旧書庫を活用した
下関文書館 (昭和42年開設)

庁舎移転に先立って、公文書室を設置しています。古い公文書記録の大量廃棄を危惧した一人の職員が、歴史的に価値があるものを選択・整理・保存しておかなければならないと主張して、市長に公文書館の設置を認めさせています。書庫の確保が難しかったことから、条例制定までには至りませんでした。文書取扱規程の一部改正を行って、廃棄文書の公文書室への引き継ぎを可能にし、庁舎移転に伴う大量廃棄処分に対処しています。

四月からの町史の編纂と、平成二年八月からの町史Ⅱの編纂と、二度にわたる町史編纂を行い、その基礎資料として、旧村役場文書を歴史民俗資料館に集中し、確実に管理しています。

美祢市の場合も、昭和四十八年七月、新築した市立図書館に郷土資料室を開設し、郷土資料の一環として、出張所の書庫を調査し、合併した旧町村役場文書を収蔵しています。

このような山口県内の旧市町村役場文書の保存活動の背後には、文書館の地方調査員が、昭和四十九年度から二年間ほど、一斉に旧役場文書の所在確認を実施した経緯があります。調査の課程で、歴史資料としての価値が認識され、市町村史編纂に活用され始めたことなどが、散逸防止に歯止めを掛ける結果になっている、といえるでしょう。

このような昭和期の旧役場文書保存活動に学び、平成期の大合併に備えたいものです。

市町村合併は、公文書廃棄の危機といわれています。確かに、新庁舎への引越など、必要なものを取り残され、廃棄処分される傾向にあります。他方では、この危機に立ち向かい、旧市町村役場文書を保存し、歴史資料としての活用につなげた事例も多くあります。今回は、昭和期の大合併後における積極的な対処事例を紹介します。

下関市の場合、昭和三十年十一月に市町村合併を終了し、三年後の市制施行七十周年に向け、市史編修を開始しましたが、市役所の二度の火災で、ほとんどの史料を失っていました。以後、市史関係者は資料の収集と保存の重要性を痛感していたようで、市立長府図書館の改築を絶好の機会ととらえ、旧書庫を残して文書記録類を移し、昭和四十二年十月、下関文書館を誕生させています。とくに、市内十二支所を回って、下関市に合併した旧町村役場文書を調査・収蔵し、散逸防止の措置を講じています。

山口市の場合、昭和五十年四月、土資料館が市立図書館に付設され、ここに専任職員が配置されたことが、その後の歴史資料の保存利用活動を進める推進力になりました。とりわけ、昭和四十四年の小野支所の新築移転をきっかけにして、合併六地区の旧村役場文書の移管を実現し、さらに、昭和五十一年三月には、文書取扱規程を改正し、行政資料の受け入れも可能にしています。とくに、旧村役場文書については、印刷目録を刊行し、保存と利用を確実にする手段にしています。

豊北町の場合、昭和四十三年

平成十五年一月十七日(金)から十九日(日)にかけて、第二回文書館デイズを開催しました。

今回の特別資料展示は「毛利家の饗応」をテーマとし、江戸時代に幕府から派遣された役人に関する資料を展示しました。萩藩側の受入体制や饗応内容、幕府役人の具体的な巡見経路などを、所蔵資料から復元しました。

また、「萩藩の国目付接待」と題して、食文化研究者の江後迪子先生を講師として、国目付への饗応料理に関する歴史探究講座を行いました。三菜五汁の豪華な献立の紹介や、鯨・かまぼこ・外郎といった山口の名産品も供されていた話など、興味深い内容でした。(右写真は、江



後迪子先生の講座)

「古文書なんでも相談」では、家伝の古文書に関する相談など六件の依頼を受けました。「初心者のための文書館一日講座」には二十七名の参加があり、所蔵資料の閲覧や施設の見学をしました。(上写真は、文書館一日講座の閲覧室案内)

第2回文書館デイズ = monjokan days 2nd

写真メモ・2002

文書・記録を未来へ

資料を良好な状態で閲覧に供するためには、補修が必要です。

現在当館では、付箋の剥がれた部分の糊継ぎをしたり、綴じ糸や表紙を新調する作業を行っています。地道な作業ですが、文書・記録を後世に引き継ぐためにも欠かせないことなのです。(写真は、県庁伝来旧藩記録の補修作業)



県内に残る文書・記録を調査することも、文書館の大切な役目です。平成十四年度も、木屋川ダム管理事務所や個人のお宅に向きました。調査内容は、カードに表題や作成者名、年代などを採り、必要に応じて整理袋に入れるなど、簡単な保存措置も講じます。所在情報がありましたら、ご一報ください。(写真は、錦町日家の調査)

ワンダー文書館

「知られていない文書館」、「不思議な文書館」という声にお応えしてのコーナーです。「ワンダフルな文書館」になっていきたいものです。

昔の防虫

古い書物をめくっていると、銀杏の葉っぱが出てくることがあります。「押し葉かな?」と思いつつ、さらに先に進んでいると、また出てきます。それも二枚も三枚、ということになると、押し葉を取り出し忘れたにしましては、「変だな?」と考え込みます。

実は、これが昔の虫除けです。とくに日本の和紙は、樹皮の繊維を使ったものですから、紙魚



銀杏の押し葉か?

(シミ)たちにとって、柔らかくて美味しいものだったようです。

この虫食いを防ぐ対策が、虫の嫌う銀杏の葉を挟み込むこと

だったのです。

銀杏の木は、防火用の樹木として、神社仏閣などに植えられてきました

が、こんな所にも銀杏が使われていたのです。今後も、化学薬品に代わる自然に優しい虫除けの知恵として、復活することができるとは、復活か。

銀杏の他にも、刻み煙草と思われるものが挟み込まれていた



この枯れ草は?

(戸島)

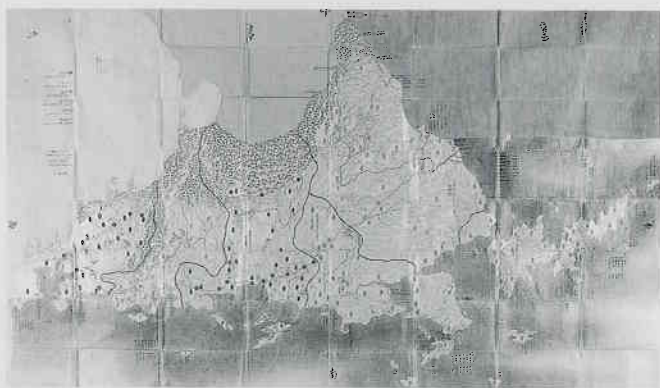
『国絵図』画像が全世界へ

「国絵図」画像を全世界へ発信します。本年度の情報発信事業の一つとして、絵図画像の発信を企画しました。館蔵の多くの絵図の中から、①地元を代表するもの、②江戸期における地域の情報が多く描かれているもの、③大型で普通の閲覧が難しいものなどの条件で、周防・長門両国の正保国絵図(毛利家文庫・二鋪)を選びました。

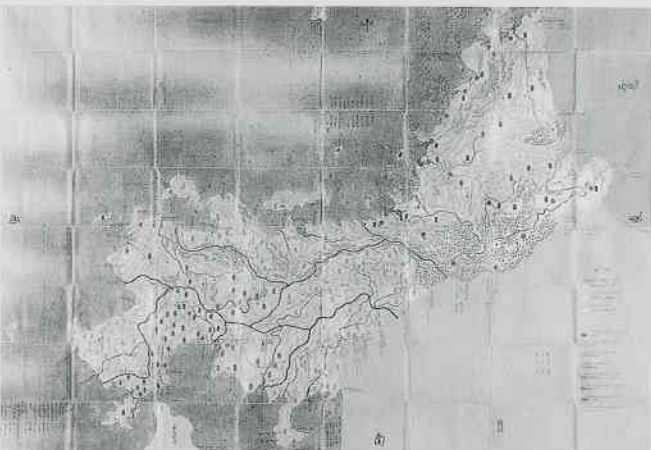
この絵図は、左の写真説明のよ

うに非常に大型なものです。撮影方法を工夫し、①画像の色が現物に近いこと、②細かい文字が読めること、③一般の人が簡単に操作できることに力点をおいて、システムを作製しました。画像から、利用者の皆様へ感動が伝わり、江戸期の山口県が楽しんでいただけることを願っております。

(河村)



正保周防国絵図(毛利家文庫238) 330×553cm



正保長門国絵図(毛利家文庫238) 335×480cm

上関町の浦方文書の目録刊行

昨年度は、『諸家文書目録6 上関町吉田家文書』を刊行しました。

吉田家は江戸時代中・後期に酒屋などを営むかたわら、萩藩上関宰判室津浦(現上関町)の浦役人を勤めた家です。その関係で吉田家文書には、室津浦の様子を伝える様々な史料が残されています。

室津浦に置かれた越荷会所(萩藩の特別会計機関の一つ)や明治にその職務の一部を引き継いだ潤益社に関する史料などは、その一例です。難破船の処理や漁業権に掛けられる税金に関する書類も、浦方に特徴的な史料でしょう。

今年度は、ひきつづき『諸家文書目録7』を刊行するための準備作業をすすめています。収録の中心は、上関町吉崎家文書です。

吉崎家も、吉田家と同じく江戸時代中・後期に室津浦の浦役人を勤めた家です。

そういった関係で、吉崎家に伝わった史料、特に浦役人関係のものには、吉田家文書と密接不可分の内容のものが多くあります。一方、公用船の調達を命じる書類が

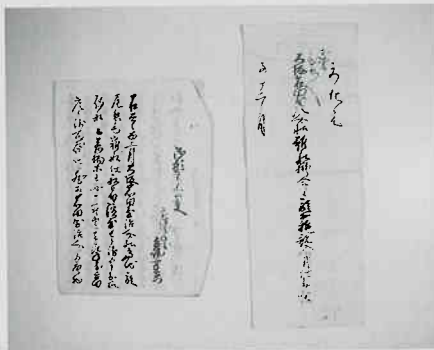
多く含まれている点は、吉田家文書には見られなかった特徴です。

したがって、この両者をあわせ見ること、はじめて江戸時代の室津浦の全体像が見えてきそうです。

なお、室津浦に限らず、萩藩では地方にくらべて浦方の様子がありわかつていません。また、私事ですが、私は上関町で働いていた縁もあり興味津々です。

この目録の刊行により、吉田・吉崎両家の文書の利用・研究がすすみ、江戸時代の浦方の様子や上関町の歴史がいつそう明らかになれば、幸いです。

(和田)



大坂船難破争論関係の文書
左:吉崎家文書 右:吉田家文書

古文書を読みに来ませんか?

◆文書館の閲覧室を覗くと、多くの利用者が熱心に古文書を読んでいます。皆さんは各々の方法でくずし字を読む術を身につけられたのでしょうか。

◆その一方で、くずし字が読めないために、文書館資料の閲覧利用を諦めておられる方もいらっしゃるのではございませんか。

◆古文書(ここでは江戸時代の文書を念頭に置いています)は想像以上に面白いものです。例えば家臣が殿様に対して言動を戒めるために差し出した「諫言書」と呼ばれる文書では、私たちがイメージする殿様と家臣の関係を壊してしまふような、激烈で無礼な言葉が紙面に溢れ、当時の両者の関係の一面面を垣間見ることが出来ますし、今年度の文書館デイズ特別資料展示で取り上げたような客人接待の記録を紐解けば、江戸時代人が食べた食材に、現在との共通点からくる共感と、意外な品を食べていた驚きといった、新たな発見があるはずですよ。

◆しかし、くずし字が読めないこ

とには古文書の面白さを味わうことができません。家庭への普及が甚だしいパソコンも、今のところくずし字を楷書に直してくれるまでには至っていません。どうやら、もうしばらくは自力だけが頼りとなるでしょう。

◆はじめは欲張らず、易しいけれどもよく使われる文字から入るのはいかがでしょうか。ちなみに私が学生の時には、活字化された史料を読み、江戸時代的な言い回しに慣れた後、くずし字に入りました。

また、文書館をはじめとして、各地で開かれている古文書講座を受講されるのもよいでしょう。

◆くずし字は、少しずつ繰り返し慣れることがポイントだと思います。以前「こんなにくずし字が読めない学生は珍しい」と先生に呆れられた私も、何とか古文書を読んでいます。皆さんも是非くずし字解読の技術を会得して、古文書を読む楽しさ、何かを発見する楽しさを体得するために文書館の資料を活用してください。

(吉田)

山口県文書館からのお知らせ

二〇〇三年度の行事

IT革命が謳われて久しくなりましたが、当館も満を持して(?)、ホームページをリニューアルしました。これからは、自宅に居ながら文書の検索や絵図資料の閲覧が可能となります。また、文書館からは情報をタイムリーに発信することができ、利用者の方の利便性も向上します。このページでお知らせしている講座の募集要項や月間小展示のテーマも、随時ホームページに掲載しますのでご覧ください。

古文書基礎講座〈橋町〉

- ・期 日 6月6日～7月11日の毎週
金曜日(計6回)
 - ・会 場 橘町総合センター
 - ・対 象 橘町および周辺市町村に在住の方
 - ・申し込み締め切り 平成15年5月27日(火)
 - ・申し込み先 橘町総合センター
(082-0777-0100)
- ※往復葉書または電話でお申し込みください。

古文書活用講座

- ・期 日 8月18(月)・19(火)・20(水)・22(金)日(計4日)
 - ・会 場 山口県立山口図書館研修室
 - ・対 象 県内小・中・高教員
- ※募集要項は、7月上旬にお知らせします。



古文書入門講座・ 古文書専修講座

- ・期 日 4月～3月
(入門講座は毎月第4土曜日、
専修講座は毎月第2土曜日。各、
計12回)
 - ・会 場 山口県立山口図書館研修室
 - ・対 象 入門：古文書解読の初心者の方
専修：より進んだ読解力の習得をめざす方
- ※来年度の募集要項は、12月にお知らせします。

月間小展示

(文書館閲覧室小展示コーナー)

文書館閲覧室において、月替わりでテーマを設け、館蔵の文書・記録を紹介しています。どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

- 4月「防芸引分―一五五四年前後の大内氏と毛利氏―」
- 5月「アメリカ艦隊来たる―ベリー来航―一五〇周年―」
- 6月「山野慣行成跡取調上申書」

文書館閲覧室は、県立山口図書館と同じ建物の2階にあります。

●開館時間

9時～17時(月曜日～土曜日)

●閉館日

- ・日曜日、祝日、月末整理日
- ・年末年始(12月28日～1月4日)
- ・春秋資料整理期間
(4月15日～21日、10月3日～9日)

